

上海紀行 その 3

相坂 耕作

娘の短大入学祝いに約束していた海外旅行を、今回引き続き上海を拠点に蘇州も訪問することとなった。平成8年1月の第2土曜日は勤務先が休みであり、日曜と祝日が重なり3連休となるので1日有給休暇を貰い4日間の旅となった。娘は初の海外旅行となるので大変喜んでいられしく、多くの友人に知らせたためにお土産が大変かとおもう。今回はJTBを利用し、宿泊は前回と同じく銀河賓館ときめた。何しろ空港から近いという利点があるため早く自由になれるのが最大の理由だ。

1年1ヶ月ぶりの上海訪問となったが、残念ながら円安のうえ物価がうなぎ昇りにあがり、そのうえ中国人もチップなれしているらしく昔の共産国にほど遠くなっているように思えた。昨年台湾を加え3度目の関西国際空港での旅立ちとなった。

1月13日 前日から修理中の歯の穴に埋めていたゴム状のかぶせがとれていたの朝一番から歯医者へいき治療をし、中華料理を食べる準備をととのえた。娘と車に乗り新幹線近くの駐車場へいれ新幹線に乗りしようとしたが予定の時間の列車がなかった。駅員からきくと季節列車らしく1列車遅く乗車することになってしまった。新大阪から関空特急「はるか」に乗り、関空に着いた時は集合時間の11時30分をやや過ぎていた。今回初めて乗る中国東方航空での旅立ちとなった。

昼1時30分よりのフライトで、時差1時間の関係で2時45分ころ上海虹橋空港に到着、入管手続きを済ませホテルに着いたのは4時頃となっていた。早速タクシーに乗り中国の昆虫民俗資料を求めため自由市場へ出向いたが5時終了の間際だったためあまり物色できず、僅かの資料入手となってしまった。その後、歩いて上海の南京路を散策した。初めての海外旅行の娘にとってみる

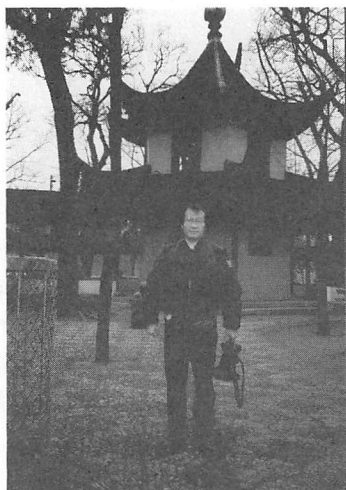
ものすべてが珍しく映ったことだろう。

さて、フリーの旅行ゆえ、たちまち夕食に困ったが南京路の一画でショーケースの中の見本を指差し食べることが出来た。いろいろショッピングを楽しみながら最後には上海友誼商店へ。ここではセミやバッタの風を購入し、いつしか時間が9時頃となりタクシーにて宿泊ホテルの銀河賓館へ戻り旅の疲れを癒すこととなった。

1月14日 5時45分のモーニングコールをしておいたが早く目が覚めた。今日は筆者が是非一度訪問したいと願っていた寒山寺のある蘇州への旅である。オプションツアーでの参加は今まで一度も体験したことがなかった。朝早く朝食をとり、7時過ぎに旅行社がマイクロバスにて迎えにきた。あつかましい運転で約2時間で蘇州についた。

蘇州は運河が網の目のように走る水の都であり、運河沿いの白壁の家や樹々が水面に陰を落とす素晴らしいところである。最初に訪問した観光地は中国最古のレンガ塔、虎丘斜塔である。その後は留園へ行きすばらしい庭を鑑賞した。留園は蘇州の四大名園の一つで、清代の庭園様式を今に伝えている。中華料理の円卓を囲み昼食をとる。次ぎの訪問地は筆者にとって最も待ち望んでいた寒山寺である。中唐の詩人・張継の漢詩「楓橋夜泊」に詠まれた有名な寺である。とくにここにある鐘は有名で日本から「除夜の鐘」をつきに多く訪れる。

筆者も娘と共に願いがかなうように3回鐘をつけてきた。寒山寺は南北朝梁の天監年間に創建されたが、焼失と再建を繰り返し、現在のものは清代末に再建されたという。寒山寺は最初「妙利普名塔院」といったそうだが、唐の貞観年間に寒山と拾得という2人の僧侶が住むようになって寒山寺とよばれるようになったと聞いた。今の住職はかなり偉い僧侶だそうで、広い中国でも4本の指



写真①



写真②



写真③



写真④



萬洪成

中國剪紙學會上海剪紙學會理事
中國工藝美術學會會員
上海工藝美術廠高級工藝美術師

萬洪成氏による剪画で特別に切ってもらった
左にトンボ 中はヤゴ 右は千支の牛

写真①：寒山寺のシンボル鐘楼前にて

写真②：除夜の鐘で有名な鐘をつく

写真③：寒山寺の住職 性空僧侶

写真④：中国工芸美術会の会員さんと日中友好の記念撮影 左より肖応棋(中国古玩の昆虫シュロ編み名人)：劉萍(泥人形作者で有名)：筆者：萬洪成(剪画で有名、上海市在住)：娘

に入るとか。名を性空(しょうくう)といい、案内人によると日本では僧侶も妻をめとるが、性の空(からっぽ)のことだそうである。この日もマレーシアから尼さんが表敬訪問し寄進しておられ、一筆書を揮毫されておられた。最後にいったところはシルク博物館である。蚕に関する資料や絹についての織物を紹介しているが、規模だけ大きくて、日本各地にある郷土資料館の養蚕資料のほうが興味深く感じた。どちらかという博物館に併設してある土産物を買わずため連れてきた感じがしたので一切ショッピングはしなかった。

1月15日 どうも雨男らしく、筆者が上海へいくと毎回雨が多い。今日も雨模様である。まず、上海自然博物館へタクシーで乗りつけたが、お休み。続いて友誼商店古玩分店へいくが改築中でお休み。仕方がないのでシャンゼリゼ通りと称される淮海路へ行って娘のショッピングに付き合った。雨が止みそうもないので大きな扇を買うため友誼商店へめざした。昼食がまだだったので友誼商店前の〇〇酒家へいき、さっぱりわからないまま中華料理をたのんだ。知らないままに北京ダッグをはじめ大きな魚を茶碗蒸してまいたようなものなど6品も出てきて多く残してしまうことになった。その後友誼商店へいき大きなチョウ扇を入手。しかし、うまく通じなくて約8人の店員さんと交渉し購入した。娘は麵塑細工(小麦のようなものを練った粘土のようなもの)で自分の肖像を作成してもらいご満悦の様子であった。時間の関係でタクシーでホテルに戻った。1昨年前に通訳をして頂いた方さんと6時に会う約束をしていたため、久しぶりに再会できた。その後まだ夕食を食べる雰囲気ではなかったので、昨日に引き続き友誼商城へ出掛け、中国の紡績関係の大学のファッションショーをみて過ごした。それから前回訪問から懇意にしている中国民芸の有名な作者たちに自分の切り絵(もちろん虫つき)などを作ってもらったり、草編みの昆虫を入手したり、京劇の面に蝶の絵を書いた相坂耕作的胡蝶なる特製のものを作成して

もらったりして軽食を買い込みホテルに帰った。

1月16日 朝便の飛行機に乗るため8時10分の集合となった。そのため早くから食事をとりいつでも帰れる態勢をとった。迎えのバスがきて乗り込み早速出国の準備が始まった。現地係員と別れ、いよいよ上海再見となるわけだが一向に搭乗させてくれない。原因がなにかわからないうち約1時間30分遅れで離陸し機上の人となった。

今回も、何かと種々いような昆虫民俗資料が入手できラッキーな旅となった。

イシガケチョウの記録

唐土 洋一

セイダカアワダチソウの花で吸蜜しているテングチョウを写真撮影していたところ、イシガケチョウが山の上方より降りてき、付近を滑空した後、セイダカアワダチソウの花で吸蜜を始めた。近寄ると、すぐ飛び立ち付近に生えているヨメナ、イタドリ、セイダカアワダチソウの花といった順で吸蜜していった。

1996年10月23日 午後2時30頃 相生市矢野町小河にて1♀(黄色型)採集。

イシガケチョウはこのところ、少ないながらも毎年観察出来るようになった。これまでに私が記録(目撃)したのは次の通りである。

- ① 1ex. (白色型) 目撃 1994年6月16日 美方郡温泉町霧ヶ滝溪谷……文献1)
- ② 1♀ (白色型) 1994年8月24日 岡山県英田郡西粟倉村景清
- ③ 1ex. (白色型) 目撃 1994年8月28日 相生市矢野町三濃山(鍛冶屋谷)……文献1)
- ④ 1♀ (黄色型) 1994年10月16日 赤穂市周世……文献1)
- ⑤ 2ex. (白色型) 目撃 1995年6月25日 龍野市